

26年度12月議会

グローバル人材の育成について

### 質問

次に、グローバル人材の育成についてでございます。

日本という国が世界の中で生きていくためには、世界中で、あるいは国際機関の中で、それぞれの国や機関に奉仕しつつも、日本という国を大切に思い、日本のために働いてくれる人材を数多くつくり出す必要があります。そのために我が会派は、道徳教育や日本人としてのアイデンティティー形成、英語教育の推進を提案してまいりました。

市もグローバル社会を生き抜く人材を育成するという指針を持たれていますが、今回は学校教育以外の部分について、主に伺ってまいりたいと思います。

第3次総合計画では国際感覚豊かなまちづくりという項目がございますので、まず、これまでの吹田市の取り組みについて御説明ください。

### 木下寛和人権文化部長

第3次総合計画では、市民と外国の人々が、それぞれの生活や習慣など多様な文化を理解し合い、全ての市民の人権を尊重する多文化共生社会のまちづくりを進めると定めております。

本市の国際化、そして多文化共生のまちづくりの取り組みといたしまして、吹田市国際交流協会におきまして、外国人を講師として、自国の文化や暮らし、言葉を紹介するとともに、日本での生活の中で感じたことを話してもらい、市民の異文化理解の促進を図る異文化理解出前講座などを実施しているところでございます。

また、次世代を担う子供たちを対象に、外国語での絵本の読み聞かせや体験学習を通して、国籍や世代の違う仲間と交流し、世界の多様な文化などについてともに学び、国際理解を深めるプログラムを実施しています。

以上でございます。

### 質問

いろいろ取り組んでいただいているということで、今、海外から吹田市を訪問される方もふえているということで、この7月にもバンクスタウンから防災関係のボランティアの方が訪問されたり、ワールドキャンパスインターナショナルという事業で、32名の学生が吹田市を訪問されています。このような事業のとき、吹田市はどのような形で協力されて

いるのか、御説明ください。

また、私自身の体験からもなんですけども、海外の友人ができることで、その国に対して非常に意識が向くようになるだけでなく、英語を話す訓練の非常に大きなモチベーションともなります。また、日本のことを意外と知らないことを知り、日本文化を本気で学ぶきっかけともなります。グローバル人材育成に関連して、外国の方々と吹田市の青少年の交流も積極的に図られるべきだと思うのですが、現状をお聞かせください。

### 木下寛和人権文化部長

海外からの訪問者への対応についてでございますが、ことしの夏のバンクスタウン市からの防災視察の際には、訪問団の受け入れを行うとともに、吹田市国際交流協会の協力を得て、本市でのホームステイの調整などを行ったところでございます。

また、ワールドキャンパスインターナショナル事業で、学生が訪問された際には、市内企業への訪問や関西大学での交流の調整を行うとともに、吹田市国際交流推進事業補助金により、事業経費の補助を行っているところでございます。

外国人と本市青少年との交流につきましては、NPO法人吹田市サッカー連盟が行うバンクスタウン市との少年サッカー交流に対して、同補助金による事業経費の補助など、支援を行っているほか、吹田市国際交流協会や関西大学などで行う国際交流イベントの周知を図っているところでございます。

以上でございます。

### 質問

吹田市は、オーストラリアのバンクスタウン、スリランカのモラトワという海外の友好交流都市を持ち、また国際交流協会や他の幾つもの市民団体が、民間レベルでの国際交流を行っています。

例えば、吹田市国際交流協会が行ってきた青少年をバンクスタウンに派遣する事業がありました。吹田市も補助をされてきたと思いますが、その事業を通じて、これまでに何名の市民がバンクスタウンを訪問されたのか、そしてその実績をどのように評価されているのかをお答えください。また、この事業を打ち切ったということも仄聞しておりますが、その理由もお聞かせください。

### 木下寛和人権文化部長

吹田市国際交流協会において実施しておりました青少年をバンクスタウン市に派遣する

事業につきましては、昭和 60 年（1985 年）3 月から平成 23 年（2011 年）3 月まで、延べ 700 人を超える市民が訪問を行ってまいりました。

この事業で、バンクスタウン市を訪問した当時の中学生が大学の国際学部へ進学したり、長期のホームステイに出かけたり、また海外からのホームステイを受け入れるホストファミリーとして協力するなど、青少年の国際的視野を広げることに繋がったものと考えております。

しかしながら、平成 23 年度（2011 年度）の事業見直しの結果、吹田市国際交流協会への補助金の削減に伴い、バンクスタウン市への派遣事業が廃止されたところでございます。

以上でございます。

## 質問

1 点、市長に伺いたいんですけども、市長としては国際感覚を持った児童というか、若者を育てていきたいという方針を持たれてると思うんですね。だからこそ、英語活動といたしますか、英語教育に力を入れておられるというふうに理解もしております。

ただ、やはり英語教育だけではなかなか難しく、こういった今、先ほど取り上げました国際交流ということも、子供たちの国際感覚を磨く一つのツールとなると考えた場合に、事業見直しで削減されて、市長の政策的な方針と、実際の税の支出に関してちょっと矛盾が生じているのではないかなと思うんですけども、市長の考える国際感覚豊かな若者の育成のために必要なことといたしますか、彼らを育てるためのビジョンというものを一度お聞かせいただけますでしょうか。

## 井上哲也市長

国際交流については、行政ができることと、民間同士でやっていただけること、いろいろあると思います。私は基本的には国際交流については、行政が中心となることじゃなくて、民間でやっていただきたい。とはいいつつも、やっぱり国際交流協会を中心にですね、いろんな事業をしていただく、このことについても支援はさせていただいております。

ただ、子供さんが英語を勉強する、そういったことについてですね、事業見直しで、これも限られた財源の中でどういった施策を選択と集中するかということの中で、そういったことを選択させていただいたんですが、ただ、吹田市の子供さんが外国へ行く、逆に言うと、吹田にいらっしゃる外国の方との交流もありますから、そういったことを推進する中でですね、グローバルな視点を持っていただいたら非常にありがたいと思います。

とはいいつつも、教育も大事でございますから、小学校で平成 29 年度には全ての学校で、1 年生から英語が勉強できる、そういったことも推進させていただきたいと思っております。

## 質問

ありがとうございます。

市長にも触れていただいたんですけども、最近国際交流として重要になってきているのが、地域に住む外国人に対する支援もあるんです。地域コミュニティの中に外国籍の方がいるという状況が珍しくなくなっている中で、よりよい関係性が形成されるように、吹田市はこの分野にも注力すべきだと考えますが、現在、在留外国人に対する支援の現状をお聞かせください。

## 木下寛和人権文化部長

外国籍市民への支援につきましては、吹田市国際交流協会におきまして、事業の3本柱の一つに位置づけて取り組んでいるところでございます。

現在、同協会におきまして、外国籍市民に対しての日本語教室の開催や、餅つき大会への外国人の参加など、地域との交流を図っております。また、日本語による会話が不十分な外国人が医療機関等を利用する際に、通訳が同行するコミュニティ通訳ボランティア同行事業を実施するなど、その支援を行っているところでございます。

今後とも、吹田市国際交流協会や関係機関と連携し、外国籍市民が地域の一員となり、地域とのよりよい関係が築けるよう、支援を行ってまいります。

以上でございます。

## 意見

今後も支援等を通じて、より吹田市の中でもそういった国際交流ができるように、支援といたしますか、推進していただければと思います。

グローバル人材の育成のためのアイデンティティー教育については、今回ちょっと省かせていただきます。